

鉄道唱歌を活用した烏山線沿線の地域活性化に関する一考察 ～『現代版烏山線鉄道唱歌』製作への取り組みを踏まえて～

指導教員 福島 二郎 准教授

514165 鳥海 航

1 はじめに

現在、わが国では、少子高齢化の進行と若年層の大都市圏への過度な人口流出が恒常化し、それに伴う弊害が地方都市を取り巻く大きな課題となっている。地方都市では、中心市街地の地盤沈下をはじめ地域文化の維持・継承が困難な状況も各地で顕在化している。本研究の対象都市である栃木県那須烏山市および高根沢町も同様の課題を抱えた地方都市であり、その対応が急務と言える。本研究では、当該エリアの地域活性化に向けた取り組みとして、両市町を連結する JR 烏山線に着目した。この路線は 1923 年に開業し現在に至っているが、本研究室では当該路線が詠われた鉄道唱歌の発掘を契機として、2014 年からその活用提案を行ってきた。本研究では、さらなる活用手法として、『現代版烏山線鉄道唱歌』の製作に向けた取り組みを行った。本稿では、市民ワークショップ（以降、WS）の開催による『現代版烏山線鉄道唱歌』の製作過程の詳細を述べるとともに、その狙いおよび成果について考察を行う。

2 これまでの取り組み成果

本研究の発端は 1930 年製作と記載された『烏山線鉄道唱歌』の発掘である。この発掘を契機に、その全文解明および唱歌が製作された近代後期から現代までの地域変容の把握（2014 年度）、往時および現代の地域資源の抽出による当該地域文化の変遷把握とその活用手法の構築（2015 年度）を行ってきた。これらの取り組みは、当該エリアの地域活性化を目途としたものであり、その定着を進めながら、2016 年 9 月からは本稿の主題となる『現代版烏山線鉄道唱歌』製作に向けた取り組みを実施している。

3 『現代版烏山線鉄道唱歌』の製作に向けた取り組み

(1) <からすやま篇>の製作過程

第 1 回 WS では、『烏山線鉄道唱歌』と『現代版烏山線鉄道唱歌』を考えてみよう！」をテーマに、当該地域の地域様相とその変容および地域特性の理解を深めることを念頭に、『現代版烏山線鉄道唱歌』の歌詞に取り入れる“地域資源”を抽出した。その結果、91 件の地域資源が抽出された。第 2 回 WS は、「みんなで作ろう『（現代版）烏山線鉄道唱歌』(1)」をテーマに、抽出した地域資源をさらに具体的に説明するための“説明文”や“成句”について提示してもらった。その結果、48 件の文言・成句が得られた。第 3 回 WS では、「みんなで作ろう『（現代版）烏山線鉄道唱歌』(2)」をテーマに、これまでの WS 成果を基に作った歌詞原案を参加者に提示し、その文言の表現と構成について議論・調整を行った。これを踏まえ、第 4 回 WS では歌詞の最終案を提示した。このような過程を経て、『現代版烏山線鉄道唱歌』<からすやま篇>として、全 17 番が概成した。

(2) <たかねざわ篇>の製作過程

表 1 WS 参加人数

分類	《からすやまWS》											
	第1回市民WS		第2回市民WS		第3回市民WS		第1回市民WS		第2回市民WS		第3回市民WS	
	市内	市外	市内	市外	市内	市外	市内	市外	市内	市外	市内	市外
一般	9	3	6	0	11	4	10	0	8	3	7	0
大学生	0	0	4	0	0	0	4	0	0	0	1	0
高校生	2	1	1	0	2	1	0	2	1	1	1	0
コーディネーター	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	1	0
事務局	2	1	0	0	2	1	0	0	2	1	0	0
計	30		36		27							

分類	《たかねざわWS》											
	第1回市民WS		第2回市民WS		第3回市民WS		第4回市民WS		第1回市民WS		第2回市民WS	
	市内	市外	市内	市外	市内	市外	市内	市外	市内	市外	市内	市外
一般	9	1	0	0	8	0	0	0	5	0	0	0
大学生	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1
高校生	5	4	0	0	1	0	0	2	0	0	4	3
コーディネーター	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1
事務局	1	1	0	0	1	1	0	0	1	0	1	1
計	23		18		12		13					

表 2 WS 開催概要

《からすやまWS》		《たかねざわWS》	
第1回		第1回	
日時	2016(平成28)年9月12日	日時	2017(平成29)年8月21日
場所	那須烏山市庁舎	場所	高根沢町福祉センター
テーマ	『烏山線鉄道唱歌』と『現代版烏山線鉄道唱歌』を考えてみよう	テーマ	唱歌に取り入れるべき地域資源及び文言の抽出
内容	『烏山線鉄道唱歌』の解明成果を踏まえ、鉄道唱歌の持つ意味・当該地域の地域様相と現代までの地域変容について確認	内容	《からすやま篇》での地域資源の抽出過程を踏まえ32件の成句(文言)を抽出
成果	91件の地域資源を抽出	成果	32件の成句(文言)を抽出
第2回		第2回	
日時	2016(平成28)年9月20日	日時	2017(平成29)年11月22日
場所	那須烏山市庁舎	場所	高根沢町図書館 仁井田分館
テーマ	みんなで作ろう『（現代版）烏山線鉄道唱歌』(1)	テーマ	唱歌原案の提示と歌詞構成についての検討①
内容	抽出した地域資源の意味をより具体的に説明するための文章表現と文言構成の提示を行った。	内容	第1回WSの成果を基に、唱歌原案を提示。その後意見交換を行い歌詞の修正箇所などを確認。
成果	48件の成句(文言)を抽出		
第3回		第3回	
日時	2017(平成29)年1月12日	日時	2017(平成29)年12月11日
場所	那須烏山市庁舎	場所	栃木県立高根沢高等学校
テーマ	みんなで作ろう『（現代版）烏山線鉄道唱歌』(2)	テーマ	唱歌校正案の提示と歌詞構成についての検討②
内容	第2回までのWS成果を踏まえ、『現代版烏山線鉄道唱歌』の歌詞原案を提示し、提案した文言・構成についての意見交換を行った。	内容	第2回WSにおいて出た修正意見を基に、再構成した歌詞を提示。その後意見交換を行い、歌詞文言の最終調整を行った。
第4回		第4回	
日時	2017(平成29)年1月20日	日時	2018(平成30)年1月10日
場所	南那須庁舎	場所	栃木県立高根沢高等学校
内容	歌詞文言の最終調整	内容	唱歌校正案の提示と歌詞構成についての検討③
成果	唱歌概成	内容	唱歌最終案を提示し、唱歌の概成とした。

表 3 歌詞構成の推敲過程

《からすやまWS》		《たかねざわWS》	
番号	修正前	番号	修正後
1番	曙光きらめくわが山河/歴史刻みし駅舎跡 緑木色号着しに/アキユムが描く未来地図	19番	平成の御世に築きたる 緑の森の高台の 幸せ誘う時空間/明日の活力紡ぐ里
2番	やなに笑み交うほみかっ初夏の貴	21番	宇津家伝の秘伝書
6番	水面みなも彩る橋の群れ	23番	カジヤの舞の舞れ舞台/お雛子の首も賑やかに
7番	落石の緑塗りしたたりて...	26番	鮎が躍る鬼怒川の/河川敷のグリーンパーク アスレチックで汗流し/コスモス畑で鑑まれる
15番	田の倉邊まで...		
番号	修正前	番号	修正後
1番	昇る朝日に煌めいて/旅立ち嬉し鳥山 アキユムが描く未来地図/踏み出す足も軽やかに	19番	新田の柚子香る/緑の森の高台の 元氣誘う時空間/温泉 癒し 憩う村
2番	八溝の絶壁やなぬの歌にえ	21番	宇津家伝の空宝鑑
6番	水面みなも彩る橋と橋	23番	大きな神籠 鏡餅/安住神社 閑静なり
7番	落石の緑塗る	26番	煌めく陽光 揺れる小波/グリーンパーク河川敷 アスレチックで汗流し/コスモス畑で鑑まれる
15番	田の奥の里...		

表 4 概成した『現代版烏山線鉄道唱歌』の歌詞全文

1	昇る朝日に煌めいて(きらめいて)/旅立ち嬉し(うれし)鳥山 アキユムが描く未来地図/踏み出す足も軽やかに
2	光と戯る(たわぶる) 那珂川の/ゆたかな流れ水溝く 若鮎躍る水飛沫(みずしぶき)/八溝の絶壁やなぬの歌(こえ)
3	450(しひやくごじゅう)の季(とき)重ね/名にし負うかな山あげの 見得切る鮎(あえきるけんらん)舞い姿/常盤津の音(ときわかのね)も晴れやかに
4	常春公が祀られし/寿庵山神社の鳥居より 七曲り(ななまがり) 経て城跡(しろあと)は/古(いにしえ)の栄え語り継ぐ
5	那須家縁の(なすけゆかりの)天性寺/お救い小屋で知られたる 勧願願(かむかむ)橋と橋/姿かたちは違え(たがえ)ども 興野山あげ鳥山/夢懸け渡す虹のごと
7	遺産となりし境橋/3連アーチも麗らか(うららかに) 緑滴る(みどりしたたる)落石の/紅葉(もみぢ)の磯はさらに映え
8	南に臨む(のぞむ)下境/千年の技(ちとせのわざ)を引き継ぎし 奉書 程村 和紙の里/賽子(すまご)に躍る勢機様
9	峯の上なる国見には/たわに弾ける(はじける) みかんあり 露地栽培の北限地/雲海の里と知られたり
10	電車はほどなく滝駅へ/轟音響く水煙(みずけむり) 大釜小釜龍門は/太平寺にもほど近し
11	神長(かなが)の小高い山裾に/木漏れ日ゆるる河(はら)ありて 戦車工場あとかたは/平和の尊さ語り継ぐ
12	稲穂のうねり大波の/沃野の大地(よのやのだいち)進みゆく にわかには(かた)りしトネルは/レールも軌(きし)む急勾配
13	小橋を過ぎて荒川の/流れに渡す鉄の橋 那須光隆(なすのみつたか)築城と/伝えし城も思はれる
14	眺め涼しき荒川の/豊かな恵み物語る 大和久 小原 十二郎/住古の生活(おおくらのい) 夢のまに
15	大地の鼓動悠々の/土地に刻みしジオパーク 太古のロマン物語る/クジラの化石見つけたり
16	田野倉の里安楽寺/名ある古刹(こしゃく)と知られけり 山門 薬師 眺めつつ/やがて向かう(むかう)は鴻野山
17	陽炎(かげろう)ゆるる草の群れ/八幡太郎義家の 譜れ(いわれ)もゆかし官衙址(かみかや)と/長者ヶ平雲高し
18	町の根幹を支える/稲穂の大波黄金色 夕日に映えるあさひ橋/飛翔(とびた)つひばり空高く
19	新田(にいしんでん)の柚子香る/緑の森の高台の 元氣誘う時空間(じくうかん)/温泉 癒し 憩う村
20	に井田を出でて花岡へ/水面(みなも)に映える緑苗(みどりなえ) たんたん田んぼの高根沢/野州米にて名も高し
21	病苦患い和らげし/宇津家(うつけ)秘伝の空宝鑑(しほうやく)
22	天下の名声轟くは/鉄路延伸故もあり 樹齢(よわい)重ねて300年/大地に息づく"いとひ"と 地蔵菩薩の笑み優し/小春日(こはるひ)揺れる浄蓮寺
23	流れる曲線反り屋根の/荘厳(しょうごん)なるかな御社(みやしろ)は 大きな神籠(みくし) 鏡餅/安住神社 閑静(しずか)なり
24	首都圏整備の一翼を/担いし高き技術力 ホンダ ハイテク エコロジー/久遠(くおん)の栄え支えゆく
25	皇室縁の牧羊場/拓きし大地緑なる 賓客(まろうど)訪(おと)う丘の上/御料牧場誉れ(ほまれ)なり
26	煌めく陽光(ひかり) 揺れる小波(なみ)/グリーンパーク河川敷 アスレチックで汗流し/コスモス畑で鑑まれる
27	日光連山雪化粧/ホニワールン鉄橋は 流れ激しき鬼怒川に/煉瓦橋脚(うるわ)しく
28	東北本線交わるは/宝積寺駅起終点 生まれ変わりし石蔵に/マルシェ 音楽 希望(ゆめ)集い

表 5 各唱歌の地域資源の構成比の比較

分類	鉄道唱歌第一集東海道編 (1900年)		鳥取線鉄道唱歌 (1930年)		現代版鉄道唱歌 (からすやま編) (2016年)		現代版鉄道唱歌 (たかねざわ編) (2017年)	
	件数	割合(%)	件数	割合(%)	件数	割合(%)	件数	割合(%)
① 自然・自然の景観	47	22.9	11	20.4	13	20.6	9	25.7
② 歴史・歴史の景観	61	29.6	13	24.1	24	38.1	4	11.4
③ 建造物(教育)	0	0	3	5.6	0	0	0	0
④ 建造物(産業)	0	0	1	1.9	0	0	1	2.9
⑤ 建造物(交通・運賃・土木)	19	9.2	6	11.1	8	12.7	6	17.1
⑥ 地名	69	33.5	19	35.2	10	15.9	4	11.4
⑦ 名物・名産・土産・伝統	10	4.9	1	1.9	8	12.7	11	31.4
合計	206	100	54	100.0	63	100.0	35	100.0

第1回WSでは、当該地域の地域資源の抽出を行い85件が抽出された。次に、歌詞に盛り込むべき地域資源として10件を選定した。その後、選定した10件の地域資源を具体的に説明するための“説明文言”について検討してもらい、32件のフレーズを抽出した。第2回WSでは、前回WSを踏まえた唱歌原案を提示し、この原案を基に歌詞文言の表現と構成について意見交換を行った。第3回WSでは、再構成した歌詞を提示し再度意見交換を行った。これらの過程を経て、第4回WSにおいて全11番までの《たかねざわ篇》が概成した。《からすやま篇》および《たかねざわ篇》の各WSへの参加人数を表1に、各WSにおける開催概要を表2に、また、各篇の歌詞構成の推敲過程を表3に示す。

4 概成した唱歌の構成要素の分析

概成した『現代版烏山線鉄道唱歌』は、《からすやま篇》17番、《たかねざわ篇》11番の全28番までの構成となった(表4)。歌詞に詠み込まれた地域資源は、当該地域の歴史や風光など地域の特徴を物語る代表的景観であり、地域の魅力情報を伝えるものである。今回製作した歌詞から、当該地域の魅力・特徴について検討することを目的に、歌詞に組み込まれた地域資源の構成要素について分析した。分析には、1900年に作られた本邦初の鉄道唱歌『鉄道唱歌第一集・東海道篇』、当該路線が詠われた1930年製作『鳥取線鉄道唱歌』、および《からすやま篇》《たかねざわ篇》により、その構成要素の比較を行った。その結果、《からすやま篇》では“歴史・歴史的景観”の比率が38.1%と高く、また、《たかねざわ篇》では“名物・名産・土産・伝統”の比率が31.4%と高いことが分かった。表5に、各唱歌の地域資源の構成比の比較を示す。

5 まとめ

本研究の成果は、以下のとおりである。

- (1) 市民WSを通して、全28番で構成する『現代版烏山線鉄道唱歌』を製作した。歌詞に盛り込まれた文言は、当該地域の代表的な歴史や自然さらには文化景観であり、それはそのまま地域の魅力情報である。
- (2) 今回製作した《からすやま篇》と《たかねざわ篇》の地域資源構成比では、《からすやま篇》は“歴史・歴史的景観”、《たかねざわ篇》では“名物・名産・土産・伝統”が高い比率を占めた。これは、各々の地域の成り立ちの差異が大きく起因しており、それはそのまま両地域のこれからのまちづくりの方向性を示唆しているものと考えられる。
- (3) 今回のWSは、市民にとって地域の魅力・誇りを覚醒するとともに、また訪問者には、軽快な耳慣れたメロディに触れながら地域文化を学ぶ案内書として機能するものと考えている。

今後は、成果の精査および効果の検証が必要となる。